

法政大学、35年ぶり4回目の優勝!



Match Review Result & Report

Reported by 藤基泰寛(読売新聞社運動部)

2017年9月10日(日) 18:00キックオフ			
会場/ヤンマースタジアム長居 天候/曇 入場者数/約4600人			
明治大学	0	0-0 0-1	1 法政大学
		得点 (アシスト)	67分 上田綺世 (ディサロ爆シルヴァー)

その瞬間、誰もがボールの軌道に固唾を呑んだ。67分、法政大学のMF20、上田綺世(1年)が、ペナルティーエリア外側から放った強烈な右足ミドルシュート。大きな弧を描き、明治大学のGK21、早川友基(1年)の頭上を越え、クロスバーの内側をたいてゴールに吸い込まれた。「頭が真っ白。ワンチャンスを仕留める準備をしていたけど、ああいうゴールは自分でも予測していなかった」。法政大学を35年ぶりの優勝に導いたヒーローは、先輩たちの祝福を受けながら目を丸くさせた。

試合は、明治大学が終始、攻め続けた。前半にMF18、佐藤亮(2年)が負傷交代するアクシデントがあったものの、連覇を狙う選手たちの意気込みは強く、準決勝でゴールを挙げたFW9、土居柊太(4年)とFW10、木戸皓貴(4年)を中心に、何度も決定機を作った。

放ったシュート数は、法政大学の3本に対し、明治大学は8本。だが、法政大学守備陣が最後まで諦めずに体をぶつけていったことで、明治大学のシュートはほとんど枠に飛ばなかった。「法政さんの粘りに、サッカーの厳しさを知った」と明治大学の栗田大輔監督は唇をかんだ。

阪南大学や筑波大学など、優勝候補を次々と破ってつかんだ頂点。3年前の決勝戦はスタンドから見ていたという法政大学GK1、関口亮助主将(4年)は「意地を見せることができた」と胸を張った。

